OP ひるま歯科 矯正歯科のニュースレター

# ひるまだより

2015.05 vol.63

OPひるま歯科 矯正歯科
OP Hiruma Dental Clinic
〒190-0012 立川市曙町1-36-1曙第3ビル2F　TEL=042-526-3376
HP=http://www.hiruma.or.jp/　E-mail=clinic-contact@hiruma.or.jp

6月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 01 | 02 | 03 | 休 | 05 | 06 |
| 休 | 08 | 09 | 10 | 休 | 12 | 13 |
| 14 | 休 | 16 | 17 | 休 | 19 | 20 |
| 休 | 22 | 23 | 24 | 休 | 26 | 27 |
| 28 | 休 | 30 | | | | |

7月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 01 | 休 | 03 | 04 |
| 休 | 06 | 07 | 08 | 休 | 10 | 11 |
| 12 | 休 | 14 | 15 | 休 | 17 | 18 |
| 休 | 休 | 21 | 22 | 休 | 24 | 25 |
| 26 | 休 | 28 | 29 | 休 | 31 | |

患者さんインタビュー31　Sさん

## 信頼できる医院を探すことが大事 良いタイミングで出会えてよかった

Sさんと Sさんのお母さまにお話をうかがいました。全文はHPでご覧ください。
●＝Sさん　◆＝Sさんのお母さま

**■矯正治療を受ける前はどのような歯並びでしたか。**

●小さい頃から歯並びがデコボコしているのに加えて、上の前歯が前に出ていました。食事をしづらいということはなかったのですが、口が閉じにくいのが自分では気になっていました。小学校低学年の頃から、家の近くの歯医者さんで矯正治療を受けていました。

◆娘が矯正治療を始めた頃は岡山県に住んでいて、自宅近くの歯科医院で歯の裏側にバネをつけて歯列を広げる治療をしてもらっていました。その後、東京に引っ越してきて、自宅の近くで矯正歯科を見つけて新たに通い始めました。そこの医院では「とりあえず歯全体にワイヤーをつけましょう」と先生から言われただけで詳しい説明もなく治療が始まりました。しばらく様子をみていたのですが、毎回なにも説明をしていただけなくて、だんだん不信感がつのってきたのです。それで、信頼できる矯正歯科はないかと探し始めて、出会ったのがOPひるま歯科矯正歯科でした。

**■OPひるま歯科 矯正歯科の印象はいかがでしたか。**

◆カウンセリングで晝間先生が「12才臼歯がまだ生えていないので、今すぐワイヤーをつけてもあまり意味がありません。定期的に歯のクリーニングをしながら12才臼歯が生えてくるのを待ち、すべての歯がそろってから矯正治療を始めましょう」と、とてもわかりやすく説明してくれたので晝間先生にお願いしようと決めました。

**■治療中、これがあったから頑張れたということはありますか。**

●周りの友達に矯正治療をしている子が多くて情報交換したり愚痴を言い合ったりできるのが良かったと思います。「歯医者さんに行ったあとって2、3日痛いよね」とか「歯並びきれいになってきたね」など友達同士で言い合えたので、それが気分転換になりました。

**■矯正治療を受けるか悩んでいる方にアドバイスを。**

◆矯正治療は時間もお金もかかるので医院選びが大事だと思います。娘の治療を通して、いろいろな医院があることがわかりました。いいと思った医院でも納得のいく説明をしてもらえないこともあります。時間はかかっても信頼できる医院を探すのがよいと思います。

●私の場合は母のすすめもあり、良いタイミングで晝間先生に出会えて良かったです。歯並びがきれいになって噛み合わせもよくなったので、前よりも良く噛んで、おいしく食べられるようになりました。歯磨きも毎日ていねいに行い、フッ素のうがいもしています。これからもきれいになった歯を保っていきたいと思います。

### Sさんの症状について解説します

●初診時の診断：「中立咬合　両突歯列　叢生歯列弓」

Sさんは7歳時にA医院で前歯の叢生を改善するために上下歯列の裏側に拡大用のバネを装着。その後転居によりB医院に転医、永久歯が萌出してきたことで再度叢生が現れたので上下顎にブラケットを装着。非抜歯にて治療を行うも前歯が突出し、口唇が閉じにくくなってきました。11 歳で当院に転医、診断の結果、左右下7番が萌出途中で今後の萌出により前歯の叢生が後戻りする可能性が高いこと、このまま非抜歯の方針で治療を継続しても口唇閉鎖時の突出感・緊張感は改善しないことから矯正治療を中断し経過観察することとしました。経過観察期間に予想通り下顎前歯部に叢生が現れてきたことから、現在の顎骨に対して歯が大きすぎて並びきらないことが確認でき、上下左右4番を抜歯し、叢生を改善しながら前歯を後退させ大臼歯を前方に移動しながら咬合を安定させることとしました。治療結果は、予想通り動的治療期間中に左右上7番が萌出し、安定した咬合を得ることができました。左右の臼歯関係はアングルI級となり左右対称の咬合を得ることができました。